

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコルの提出が必須です
プロトコルがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	チラブルチニブ
診療科名	血液・腫瘍内科
診療科責任者名	末永 孝生
適応がん種	再発又は難治性の中枢神経系原発リンパ腫
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	NHL-041
登録日・更新日	2020年6月23日
削除日	
出典	ベレキシブル錠添付文書・適正使用ガイド
入力者	湯山 聡

投与順に記入(抗がん剤のみ)

No.	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名)	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	希釈液					
No.1	チラブルチニブ塩酸塩 (ベレキシブル錠) なし	80mg	480mg/body/日	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CVポート <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(経口)	1日1回*	連日

1コースの期間	-
投与間隔の短縮規定	<input type="checkbox"/> 短縮可能(日)・ <input type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>・開始基準 ANC\geq1000/μL, PLT\geq5万/μL, Hb\geq8.0g/dL AST$<$100IU/L, ALT$<$100IU/L, T-Bil$<$1.5mg/dL, Cr-CL\geq50mL/min</p> <p>・減量段階</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>段階</th> <th>用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通常投与量</td> <td>480 mg</td> </tr> <tr> <td>1段階減量</td> <td>320 mg</td> </tr> <tr> <td>2段階減量</td> <td>160 mg</td> </tr> </tbody> </table>	段階	用量	通常投与量	480 mg	1段階減量	320 mg	2段階減量	160 mg	
	段階	用量								
通常投与量	480 mg									
1段階減量	320 mg									
2段階減量	160 mg									
<p>・休薬・減量・中止基準</p> <table border="1"> <tr> <td>Grade3以上の発熱性好中球減少症 出血を伴うGrade3の血小板減少症 Grade4の血小板減少症</td> <td>Grade2以下に回復するまで休薬する。回復後は、休薬前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休薬し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。</td> </tr> <tr> <td>Grade4の好中球減少症</td> <td>Grade3以下に回復するまで休薬する。回復後は、休薬前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休薬し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。</td> </tr> <tr> <td>間質性肺疾患</td> <td>Grade2又は3 Grade1以下に回復するまで休薬する。回復後は、休薬前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休薬し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。 Grade4 中止する。</td> </tr> <tr> <td>皮膚障害</td> <td>Grade2 Grade3以上 抗ヒスタミン剤、副腎皮質ホルモン等を投与し、回復した場合には、投与を継続する。回復しない場合には、1段階減量して投与を継続又は休薬する。 抗ヒスタミン剤、副腎皮質ホルモン等を投与するとともに、Grade2以下に回復するまで休薬する。回復後1段階減量して投与を再開することができる。</td> </tr> <tr> <td>Grade3以上の血液毒性(上記の事象を除く)及びGrade3以上の非血液毒性(間質性肺疾患及び皮膚障害を除く)</td> <td>Grade2以下に回復するまで休薬する。回復後は、休薬前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休薬し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。</td> </tr> </table>	Grade3以上の発熱性好中球減少症 出血を伴うGrade3の血小板減少症 Grade4の血小板減少症	Grade2以下に回復するまで休薬する。回復後は、休薬前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休薬し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。	Grade4の好中球減少症	Grade3以下に回復するまで休薬する。回復後は、休薬前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休薬し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。	間質性肺疾患	Grade2又は3 Grade1以下に回復するまで休薬する。回復後は、休薬前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休薬し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。 Grade4 中止する。	皮膚障害	Grade2 Grade3以上 抗ヒスタミン剤、副腎皮質ホルモン等を投与し、回復した場合には、投与を継続する。回復しない場合には、1段階減量して投与を継続又は休薬する。 抗ヒスタミン剤、副腎皮質ホルモン等を投与するとともに、Grade2以下に回復するまで休薬する。回復後1段階減量して投与を再開することができる。	Grade3以上の血液毒性(上記の事象を除く)及びGrade3以上の非血液毒性(間質性肺疾患及び皮膚障害を除く)	Grade2以下に回復するまで休薬する。回復後は、休薬前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休薬し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。
Grade3以上の発熱性好中球減少症 出血を伴うGrade3の血小板減少症 Grade4の血小板減少症	Grade2以下に回復するまで休薬する。回復後は、休薬前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休薬し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。									
Grade4の好中球減少症	Grade3以下に回復するまで休薬する。回復後は、休薬前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休薬し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。									
間質性肺疾患	Grade2又は3 Grade1以下に回復するまで休薬する。回復後は、休薬前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休薬し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。 Grade4 中止する。									
皮膚障害	Grade2 Grade3以上 抗ヒスタミン剤、副腎皮質ホルモン等を投与し、回復した場合には、投与を継続する。回復しない場合には、1段階減量して投与を継続又は休薬する。 抗ヒスタミン剤、副腎皮質ホルモン等を投与するとともに、Grade2以下に回復するまで休薬する。回復後1段階減量して投与を再開することができる。									
Grade3以上の血液毒性(上記の事象を除く)及びGrade3以上の非血液毒性(間質性肺疾患及び皮膚障害を除く)	Grade2以下に回復するまで休薬する。回復後は、休薬前の用量で再開することができる。再開した後に再び発現した場合、回復するまで休薬し、回復後1段階減量して投与を再開することができる。									
前投薬										
その他の注意事項	<p>* 空腹時に経口投与すること。食事の1時間前から食後2時間までの間の服用は避けること。</p> <p>・重篤な多形紅斑、中毒性皮膚炎等の重篤な皮膚症状があらわれることがあるため、抗ヒスタミン薬(ジフェンヒドラミン、クロルフェニラミンなど)及び副腎皮質ホルモン剤(プレドニゾロン換算で10mg/日まで)の予防投与を検討すること。</p> <p>・抗菌剤(シプロフロキサシンなどのフルオロキノロン系薬剤)、抗真菌剤(ST合剤など)及び抗ウイルス薬(アシクロビルなど)の予防投与を検討すること。</p> <p>・B型肝炎ウイルスの再活性化があらわれることがあるので、投与に先立って肝炎ウイルスの感染の有無を確認すること。投与開始後は継続して肝機能検査や肝炎ウイルスマーカーのモニタリングを行うなど、B型肝炎ウイルスの再活性化の徴候や症状の発現に注意すること。</p>									

記入者	湯山 聡
確認者	田畑 里佳子